

# 重要なまちづくりの課題の現状評価シート

重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)	子どもたちに環境教育がきちんとされている	
施策名	子どもへ環境教育を推進する	No.20

年度	平成28年度
責任部長	環境部長
主担当課長	環境保全課長
関係課	公園緑地課、清掃対策課、施設管理課

## 1. まちづくり指標の現状

まちづくり指標	指標のめざす方向	現状値		実績値				目標値	
		H18	H20	H21	H22	H23	H24	5年後	
		H24	H25	H26	H27	H28	H29	10年後	
環境に優しい生活を心がけていると思う小中学生の割合(%)	→	72.7	79.7	79.2	82.1	78.8	82.7	79.4	
		82.7	83.9	85.6	86.6	84.4		85.5	
環境に優しい生活を心がけている家族だと思う小中学生の割合(%)	→	69.6	78.8	80.1	78.2	79.9	84.1	76.8	
		84.1	85.2	87.0	85.3	87.5		85.0	
子ども向け環境イベントや環境学習プログラムの参加者数	①いちのみやエコスクール運動事業参加校数(校)	→	53	61	61	61	61	61	61
			61	61	61	61	61		61
	②環境イベントや環境学習プログラム参加者数(人)	→	460	658	647	636	1,056	3,663	915
			3,663	1,727	1,898	1,124	959		3,800

## 2. 外的要因(世論、自然環境、社会動向、民間・NPO活動等)

環境の現状について正しい認識を持ち、環境保全に関して担うべき役割と環境保全に参加する意義を理解し、それぞれの立場に応じた役割分担の下、自主的、積極的に取組が求められている。また、平成26年にESDユネスコ世界会議が開催されたことに伴い、環境教育に対する機運が高まってきている。

## 3. めざすべき姿に対する現状評価(まちづくり指標や外的要因等からの評価)

現状評価	<b>B</b> 停滞	環境に優しい生活を心がけていると思う指標は、家族単位の数値は年々向上しており、小中学生の平成28年度指標数値が微減したことは一時的と考えられる。環境イベントや学習プログラムへの参加人数は減少傾向である。以上のことからB評価とした。
------	----------------	---

評価がB・Cの場合

## 4. 事務事業群に対する評価(行政活動の評価)

長期成果(事業群①)	長期成果(事業群②)	長期成果(事業群③)	長期成果(事業群④)
身近に環境学習や実践活動の場や機会が提供されている	環境教育・学習を進める環境団体や指導者が育成されている		
環境基本計画推進事業	こどもエコクラブ推進事業		
いちのみやエコスクール運動事業			
環境学習推進事業			
エコハウス138環境学習事業			
みどりの少年団育成事業			
入学記念樹配布事業			
市民参加の森づくり事業			
公園・緑地整備事業			
評価観点	1. 長期成果は重要なまちづくりの課題(めざすべき姿)の一手手前の状態となっており、モレなくダブリなく設定されているか。 2. 各事業群の事務事業は、長期成果を達成するのに必要十分であるか。		
評価	長期成果の設定は、「環境学習や実践活動の場や機会の提供」と「環境教育・学習を進める環境団体や指導者の育成」という切り口で捉えており問題はない。環境に優しい生活を心がけていると思う小中学生の割合の減少は一時的と考えられる。環境イベントや学習プログラムへの参加人数が減少傾向にあるのは、指標の一つであるこどもエコクラブの登録人数が減少したためであるが、今後も情報提供による意識啓発を図ることにより改善を図る。また、環境学習講座の参加人数は増加傾向にあるため、現行の事務事業を継続していく。		
次年度の改善計画	長期成果事業群に挙げた事務事業を今後も着実に実施していくことによって、環境学習・実践活動の場や機会の提供、環境教育・学習を進める環境団体や指導者の育成ができるものと期待している。		

市民からみた計画の進捗状況 □A □B □C

- ・A判定(改善傾向) 36%
- ・B判定(停滞) 57%
- ・C判定(悪化傾向) 7%

